



水稲 殺虫・殺菌剤/育苗箱施用剤

NEW

# エクソロットル®

- いもち病
- 紋枯病
- ウンカ類
- 初期害虫
- 高密度は種対応
- は種時から
- WCS\*使用可

## 箱粒剤

# 新たな紋枯防除、はじまる!



・水稲の主要病害虫を一度に防除可能。

・紋枯病・ウンカ類に高い防除効果。

・高密度は種対応、WCS\*使用可。



いもち病



紋枯病



イネミスゾウムシ



トビイロウンカ



Pyralis® active

powered by RYNAXYPYR® ACTIVE INGREDIENT

TM ロルテバ・アクリルサイエンスおよびその関連会社商標 RYNAXYPYR® は、FMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

® エクソロットル® は、フジケイ化学工業(株)の登録商標

\*WCS:稲発酵粗飼料

# エクストロトル®

## 箱粒剤

有効成分	クロラントリニプロール …… 0.75%	ジクロベンチアゾクス …… 2.0%
	トリフルメゾピリム …… 0.75%	フルキサピロキサド …… 1.5%
人畜毒性	普通物 (毒劇物に該当しないものを指している通称)	

- 特長**
- 新規成分配合で紋枯病に優れた効果と水稻への高い安全性
- 抵抗性ウンカ類に優れた効果と長い残効性
- 4成分のため、いもち病をはじめとした水稻の主要病害虫に対して有効

### 適用病害虫と使用方法

2025年12月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントリニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数	フルキサピロキサドを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病、紋枯病 内穎褐変病、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ イネミスソウムシ イネドロオウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時 (覆土前) ? 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30× 60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)							
	白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植当日						
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30× 60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)							

### 新農薬実用化試験成績

● 葉いもち病に対する効果

調査日	防除値 (%)
移植当日	91.9
播種時	91.7
移植当日	96.9
播種時	91.0

● 紋枯病に対する効果

調査日	防除値 (%)
移植当日	81.1
移植当日	86.8

● トビイロウンカに対する効果

調査日	成幼虫数
播種時	28
移植当日	10
移植当日	28
移植当日	5
移植当日	6
移植当日	7
移植当日	0
移植当日	1
移植当日	0
無処理	93
無処理	142
無処理	5231

<p>2023年 広島県立総合技術研究所農業技術センター</p> <p>品 種：コシヒカリ</p> <p>播 種：5月15日</p> <p>移 植：6月6日</p> <p>発生程度：中</p> <p>調査日：7月28日</p> <p>調査方法：(葉いもち) 1区100株×3地点について 病斑面積率を調査し、防除値を算出した。</p>	<p>2023年 山口県農林総合技術センター</p> <p>品 種：日本晴</p> <p>播 種：5月19日</p> <p>移 植：6月8日</p> <p>発生程度：多発生(接種)</p> <p>調査日：9月7日</p> <p>調査方法：各区100株×3か所の発病株数と被害度を 調査し防除値を算出した。</p>	<p>2023年 長崎県農林技術開発センター</p> <p>品 種：にごまる</p> <p>区制・面積：1区144㎡ 連制なし</p> <p>播 種：5月26日</p> <p>移 植：6月14日</p> <p>発生程度：中</p> <p>調査日：7月12日~9月22日</p> <p>調査方法：所定日に1区15株×3か所について払落しにより 成・幼虫数を調査</p>
---	--	---

### 【使用上の注意事項】

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 苗を田植機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落としその後軽く灌水してください。
- 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当りに乾物として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 高温と乾燥が続く場合、葉身や葉鞘に褐変を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、冷涼・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ● 防除日誌を記載しましょう。